

AUTUMN 2013

日本ジャズ評論の大家であった油井正一の遺稿と資料を集めた「油井正一アーカイヴ」。その場を基盤として、つねに拡張するジャズの歴史／最先端を紐解く、画期的研究会！

9月10日 [火] | 7日 [火] 20日 [金] 19:00 より 90分

「ジャズ評論家の昭和史」

慶應義塾大学アート・センター油井正一アーカイヴでは、ジャズの研究とともに、日本のジャズ評論家が担った役割についても研究を進めたいと考えています。油井正一の未発表原稿を含む「ジャズ昭和史」（油井正一著、行方均編、ディスコユニオンより）出版を機に、今も第一線で活躍する大御所ジャズ評論家にご来校、ご登壇いただき、その評論家としての人生を振り返っていただきます。対談形式でお話を伺いますが、お相手は本研究会モデレーターでもある中川ヨウ。各氏との親交から、その昭和史を振り返ります。油井正一の回は、編集にあられた行方均氏と、中川との対談で油井正一を偲びます。

【場所】慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎

【対象】どなたでもご参加いただけます

【費用】各回につき、下記費用が必要となります

一般：2,000円 学生：1,000円 学生（慶應義塾）：無料

【お申し込み方法】メールフォーム、またはファックス

※ 各シーズン、複数回の連続講義となっておりますが、各回のみのお申し込みも可能です

・メールフォーム：<http://bit.ly/13BPMuA>

・ファックス：03-5427-1620

ファックスの場合、下記項目を記入の上お申し込みください。

1. お名前 / 2. メールアドレス / 3. 電話番号 / 4. 区分（一般、学生、学生（慶應義塾）） / 5. ご所属 / 6. 参加を希望される日程

【お問い合わせ】慶應義塾大学アート・センター 担当：本間

108-8345 東京都港区三田 2-15-45 TEL. 03-5427-1621

honna@art-c.keio.ac.jp <http://blog.art-c.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学アート・センター 油井正一アーカイヴ

公開研究会

拡張するジャズ：講義編

担当講師

9月10日 瀬川昌久氏

ジャズ評論家、『月刊ミュージカル』編集長。1924年、東京生まれ。東京大学法学部卒業後、某銀行に入行。ニューヨーク駐在中より評論活動を開始。特に戦前の日本のジャズの紹介に勤める。油井正一も「日本のジャズは瀬川さんに聞け」と信頼した。本講では、慶應義塾大学とビッグバンドの歴史についても言及される。近著に「日本ジャズの誕生」（青土社）。

9月17日 相倉久人氏

音楽・映像評論家。1931年、東京生まれ。東京大学文学部中退。鋭いジャズ評論の傍ら、新宿ピットインなどでの名司会でも人気を博す。1970年に自分の中で定義していた「ジャズ」が死んだと判断し、ジャズ評論から退き、ロックなどの評論を開始。近年、ジャズ評論を再開し、近著「至高の日本ジャズ全史」（集英社新書）が大きな話題となっている。戦後の混乱期からジャズと闘争の時代まで、現場に居た相倉氏ならではのお話を伺う。

9月20日 行方均氏

レコード会社役員 / レコード・プロデューサー。1951年、仙台生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。1980年代よりブルーノート・レーベルの制作・編成に携わる。油井正一から薫陶を受け、油井が亡くなるまで深い親交をもった。その縁で、油井正一著「ブルーノート JAZZ ストーリー」「ジャズ・ピアノ」（共に新潮文庫）のプロデュースもある。この度、時代と音楽の文化史として「ジャズ昭和史」（油井正一著、行方均編）を出版。未完・未発表の自叙伝「もうひとつの昭和史」も収録した。行方氏ならではの油井正一像を語っていただく。

モデレーター 中川ヨウ 音楽評論家。ジャズを核に、ポピュラー・ミュージック全般、ワールド・ミュージック

とジャンルにとらわれない執筆活動を展開。21世紀の音楽の行方を語る評論家として、高く評価されている。連載として、毎日新聞「らっこ」、新潮社「ENGINE」、「婦人公論」、「オーディオ アクセサリー」などがある。近著に、「ジャズに生きた女たち」（平凡社新書）がある。近年は、音楽評論の域を超え、音楽教育でも活躍しており、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授、洗足学園音楽大学ジャズ・コース客員教授をつとめている。

油井正一アーカイヴについて ■ 慶應義塾大学アート・センターでは、ジャズ評論の草分けである油井正一のジャズ関連資料をご遺族からお預かりし、油井正一アーカイヴとして、保存・活用しています。油井正一がその生涯に集めた膨大な資料や記録は、それ自体が日本の生きたジャズ史を形成すると言っても大袈裟ではないほどに充実したものです。資料は総数約 10,000 点におよび、書籍（図書、雑誌、印刷物）、文字資料（ファイル、原稿、メモ、ノートなど）、音声資料（CD、レコード、カセットテープなど）、映像資料（ビデオなど）を含みます。アーカイヴの利用方法についての詳細は、ウェブサイトをご覧ください。アート・センター油井正一アーカイヴ担当（本間 友）までお問い合わせください。